

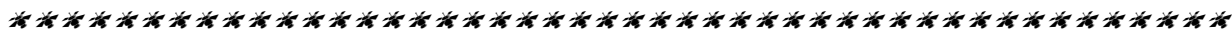


とつか
2021年4月会報 第318号

- 2020 国際会長(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)
- 主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP” (価値観、エクステンション、リーダーシップ)
- スローガン “TRUST IN THE RIVER OF LIFE” 「命の川を信じよう」
- アジア太平洋地域会長(AP) David Lua (シンガポール)
- 主 題 “Make A Difference” 「変化をもたらそう」
- スローガン “INSPIRE” 「奮い立たせよう」
- 東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)
- 主 題 「変化をたのしもう！」 “Let’s enjoy Changes.”
- 副 題 「助け合い、分かち合い」 “Let’s help and share each other.”
- 2021 湘南・沖縄部部长(DG) 古田 和彦 (横浜)
- 主 題 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」
- クラブ会長 若木 一美 会長主題 「咲かそう 人の輪」
- 副会長 吉原 訓 書記 加藤 利榮 会計 岡 進

(甲府の大会は

リモート方式に…)



会員ひと言 ☆コロナ禍に想う☆ ネット会長 吉原 和子



昨年2月、横浜港の大型豪華客船からのコロナ騒ぎから1年以上が過ぎ、いまだに終息を見ません。その時のテレビニュースでの様子はまだ対岸の火事のような感覚で、こんな事態になるなんて想像すらできなかった。毎日のスティホームで、すっかりテレビとお友達になっている私ですが、コロナの禍(わざわい)はまだしも、何とコロナ関連用語の多い事か！ クラスタ(集団感染)、パンデミック、ソーシャルディスタンス、オーバーシュート、COVID-19 等々。せめてアラートくらいは「警報」ということでいいのでは?…と思います。

YMCA でもリモートで、ZOOM だと…、我が家の古いパソコンはカメラが付いていないので、電気屋さんでカメラを買いました。説明書を見ながら取り付けましたが、取り付けただけでは通信が出来ないようで、娘婿殿に通信が出来るようにしてもらいましたが、まだリモートはやっていません。先日、銀行でのこと、窓口に来たお爺さんに、「振り込みでしたらATMの方が早いですよ。」と受付嬢…、「機械が出来ないから来てるんだ。」とその老人がどなっていました。‘分かるわ～その気持ち…’

皆さんと一日も早く顔を見ておしゃべりしたいです…。

◎今月の聖句◎

もし、「わたしが求めるのは憐れみであって、いかにえではない」という言葉の意味を知っていれば、あなたたちは罪もない人たちをとがめなかったであろう。

—マタイによる福音書第12章7節—

イエスは、「人の子は安息日の主なのである。」といわれた。主の心のいかに大きなことかをたった数行足らずの御言葉からうかがい知ることができます。大きな災害に直面して、主の御言葉を反芻することも忘れてはなりません。大事なことです…。



LT/Leadership Training、会員の意識向上とリーダーシップ開発を目的とする研修で、クラブ役員や部役員を対象とするものをや関連の研修会が部・区やクラブの主宰で行われる。時に、東山荘などで1泊2日にわたって開催されることもあることで、親睦交流の意義も大きい。

次に今回初登場のRBM、Roll back Malaria、1998年WHOやUNICEF等が音頭取りとなって始めたマラリア撲滅キャンペーン、国際献金種目の一つです…。

会員数	3月出席者数	出席率	ファン 他	B (円)	F (g)	CS・TOP・ A S F (円)	B A P Y (円)	ロ (円)	バ
メン	12	0				50,000	0		0
メネット	9	0				0	0		0
	ゲストら	0							
計	21	0			0	50,000	0		0

★強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う★



JR大船駅の西側、小高い山頂に‘大船観音’があるのをご存知でしょうか…？その歴史は古く、昭和4年、観音思想の普及により世相の浄化をしようと、時の首相清浦奎吾らが建立を計画、彫刻家山崎朝雲の指導により造仏に着手したが、昭和9年原型が大方出来上がったところで資金難に加えて戦争等により中断、戦後、昭和29年に地元有志らによる‘(財)大船観音協会’が設立され、集められた寄附浄財により、昭和35年に高さ約25メートルの胸像として完成しました。(神奈川県高等学校教科研究会・社会科歴史分科会編「神奈川県の歴史散歩・山川出版社」より。) (写真右上)

さて、ここに原爆慰霊碑があるのをご存知でしょうか？‘神奈川県原爆被災者の会’が被爆25年に恒久平和を祈願して建立し、同45年には当時の県知事長洲一二さんによる‘核兵器も無い 戦争も無い 平和な世界を’と書かれた‘平和記念碑’と‘原爆の火の塔’が建立され、福岡県星野村に灯され続けていた広島原爆の‘残り火’が分火され、現在も灯され続けております。(写真右下) 私も昭和60年(国際青年の年)の平和記念塔除幕式にて青年代表としてご挨拶をさせていただき、同会の会長をなさっておられた故土田康さんに県立鎌倉青少年会館で

私たちにその体験を語っていただきました。お話しの中で「…災害はいつきの出来事だが、被爆は二世・三世まで様々な影響がある…」とお話しされ、参加者一同、平和を考える貴重なひと時となりました。土田さんは亡くなりましたが、‘平和を願う灯’は灯っております…。



かつての(財)大船観音協会は昭和56年11月末日に解散し現在は‘宗教法人大船観音寺’と改称された曹洞宗のお寺として運営されています。一方、境内ではここ20年来、‘ゆめ観音アジア・フェスティバル’が同実行委員会の音頭取りで、毎年9月に開催されてきました。(近年はコロナ禍の影響を受けています。)同実行委員会のメンバーがアジアの伝統的な民族舞踊やコンサート、物産販売等でアジアの人々への支援の輪を拓けるなど、様々な平和活動に取り組んでいます。

皆さんも、コロナ・ワクチンの接種を終えられましたら、健康管理のことも有り、一度、大船観音様のヤマまで散策され、様々な災害をもう一度お考えになってみられてはいかがでしょうか…。



“つれづれなるままに、日ぐらし硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付くれば、あやうこそ物狂ほしけれ。”ご存知、兼好法師‘徒然草’の書き出し部分「序段」ですが、今のワタシの日常にピタリです…。ついでに申し上げるなら、その155段には、“…死は前よりしも来らず、かねて後に迫れり。人みな死ある事を知りて待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。”つまり、死というモノは順序良く前からやってくるばかりとは限らず、後ろからもやってくる。…と、人の寿命について、いつ尽きるか分からないので、それなりの覚悟をもって生きなさい…とケイコクしています。

また、先だってお借りした本には『50は折返し点・下山の始まり、60はリセット・再起動の時、70は黄金期・活力の補充、80は社会的しがらみから身を引く・嫌われる覚悟で思い通りに生きる時期、90はたとえ体が不自由でも、それまで培ってきた想像力を活かす時期、そして麓へ着いて初めてその登山は成功したと思いたい…。』と。

ついでながら、日ごろのメモから…。

- ❖ 最も長生きした人とは、最もよく人生を体験した人だ。
- ❖ 少にして学べば、即ち壮にして為すこと有り。
壮にして学べば、即ち老いて衰えず。
老いて学べば、即ち死して朽ちず。

- ❖ 創めることを忘れなければ、老いるもまた楽しからずや。
- ❖ 手作業のできるものを文化という。文化のことを英語でカルチャー、‘土を耕す’という意味の派生語からくる。
また、**年寄り**が爽やかに老いるチエとは…(新福尚武著)。
- ☆ 惨めなことは、人間らしい生活ができないこと。
- ☆ 悲しいことは、敬して遠ざけられること。
- ☆ 醜いことは、過去にしがみついて生きていること。
- ☆ 不幸なことは、「老い」を受け入れないこと。
- ☆ 美しいことは、若い者のために陰の力となってやること。
- ☆ 楽しいことは、年齢を忘れて好きなことに没頭すること。
- ☆ 尊いことは、死を忘れないこと。

…と言う訳ですが、「人之間」と書いてニンゲンと読む。人はひとりでは生きられない、人との関わりの中で生きている。‘地球はひとつ’の考えを持つことが大事かと思えます。

さて「…今年は、‘断・捨・離’を考えたい…」と1月のブリテン(会員ひと言)に書きました。不要となったモノを積極的に手放すことから始めています。先だっては、年度替わりの時期でもあり、YMCAの複数の役職を免除していただきました。

さて、私には、日ごろ心に留めている3人の畏友がいらっしゃいます。先方様に迷惑が及ぶと申し訳ないので、ここでは名を伏せさせていただきますが、わたし自身には大変貴重、かつ最大限に尊敬の方々です。うち、お二人はワイズメンです。機

会がありましたら本欄で紹介させていただきます。

【特別寄稿】

☆元コメント「ちょっと手伝ってきて」☆

～ちょっとのつもりがもう 20 年～

地域奉仕・YMCA サービス事業主任 **小原 志奈子** (東京たんぽぽ)



横浜とつかクラブの皆様 こんにちは。東京たんぽぽ Y サービスクラブの小原史奈子です。コロナ禍で例年のように地域奉仕活動や YMCA 支援が思うようにできない中、いち早く湘南・沖縄部有志の皆さんがエクステンション委員長の辻剛ワイズを中心に、手作りマスク作りに動かれ、7 月には 300 枚、9 月には 700 枚を横浜 YMCA とのつながりで多方面に寄贈されたとの事、ブリテンや‘つながりニュース’で拝見させていただきました。

この素晴らしい行動力を継承するために、ぜひ、コメント・マゴメットにもその背中を見せるべく、活動の場、居場所を提供して頂ければ…、と思っております。ポイントは、所属クラブを分けた「適度な距離感」です。私自身、東京世田谷クラブの小原武夫ワイズの元コメントで、ある時「ちょっと越智さんのお手伝いをしてきて…」と言われ、行ったところが‘東京たんぽぽ’の設立総会、新クラブのチャーターメンバーとして、みんなでクラブを作っていく過程を体験し、お陰様で、ワイズ・YMCA の多くの方々と出会い、育てていただきました。

親とは違うクラブや部だったことで、例会やイベントにはそれぞれのクラブにビジター参加し、お手伝いすることで、ワイズのお知り合いも倍に増えました。他の部にも知っている方がおられれば、ワイズや YMCA のイベントに参加することがより楽しくなります。ワイズの話で、親子の会話も増えました。そして次には、中学生の甥っ子と YMCA で活動と一緒にすること、それがこれからの楽しみなのです。そこにも‘つながり’を感じることができるはずですよ。

(小原史奈子様、お忙しい中 貴重なご寄稿を賜り有り難うございました。)

アンジュ通信

横浜 YMCA ワークサポートセンターアンジュ 相馬 良文



ワークサポートセンターでは、日々の活動を通じて「就労」を目標に取り組んでいます。3月1日から1名の方の就職が決まりました。就職先は人材派遣会社の特例子会社です。障がい者の雇用割合が定められており(会社の法定雇用率:2.2%、官公庁:2.5%)、障がいのある方のサポートや環境整備を集約する目的で、子会社を設立することも認められています。戸塚では「日立ゆう&あい」があり、嬉しい反面、貴重な戦力が欠けることにもなり、こうした環境・配慮の下での取り組みです。



☆多文化共生の YMCA いずみ保育園☆

園長 **井上 孝一**



今年度の卒園式は3月13日(土)に行いました。例年ですと、多くの家族の笑顔や、式に列席する4歳児(年中組)のお友だちに見守られながら、喜びの時を迎えます。しかし今年新型コロナウイルスの影響で規模を小さくして行いました。各家庭からの参列は2名までとし、在園児やご来賓の列席も有りません。しかし地域のお世話になった方々や、以前、園におられた先生からビデオメッセージを頂き、「離れていても繋がっている」「一緒に心から喜びを分かち合う」空間を作り出し、素晴らしい卒園式ができました。ベトナムにルーツのある卒園児とそのお母様が、民族衣装のアオザイを着て参加していただき、華やいだ雰囲気になるとともに、多文化共生保育が日常である YMCA いずみ保育園の一端を垣間見ることができました。(写真右)

YMCA いずみ保育園は泉区上飯田にあり、海外にルーツのある園児が在籍しています。現在は15名ほど在園していて、ルーツのある国も、ベトナム・中国・フィリピン・ベルギー・ウガンダと多岐にわたっています。開園した15年前から暫らくは40名ぐらい在園していました。‘園だより’や保護者への案内などは、数か国語に翻訳してお渡しすることが必要でしたが、現在はベトナム語と中国語の通訳の方が定期的に協力してくれています。

毎日の保育の中でも‘朝の会’のあいさつを園児が思いのままにそれぞれの国のコトバでしてみたり、遊びの中でベトナム踊りやバンブーダンスを採り入れるなど、その国の文化をうかがうことができます。園児の生活や成長を見ていると、この多文化共生の保育が「色々な国々の文化を感じる」という事実を超えて、「違いがあるのが普通」「違いを認め合い、そして、共生していくために必要なことを考える」「共に平和な社会を創り出す心と行動」に繋がっていると感じております。

この保育園は、4月より「幼保連携型認定こども園 YMCA いずみ保育園」として新たにスタートしました。地域の方と共に、「平和の使者となるこどもに寄り添うこども園」になりたいと思っております。戸塚区のお隣になります。どうぞお近くにお越しの節は、色々な国に繋がる保育園にご来園ください。お待ちしております。



YMCA だより

★少しずつ変化する日常★

クラブ担当主事 瀬戸 敏孝



新型コロナウイルスは、2019年11月に発生が確認され、同年12月31日に最初に世界保健機関（WHO）に報告された。その後、2019年から翌2020年にかけて発生した中国武漢で大流行した時はまだ日本では対岸の火事でした。2021年3月、緊急事態宣言期間も解除されましたが、現状は何も変わっていませんし、感染者数も減少に転じているわけではありません。あれから1年4か月が経過しましたが、まだ状況は変わっていません。

変えざるを得ない日常を目の前にして、私たちの働きも少しずつ変化しています。

クラスの人数制限、館内見学の制限、以前と比べると様々な制限が掛かっており、窮屈な思いもしますが少しずつ日常に戻りつつあるものもあります。

横浜市生麦地域ケアプラザに運動指導を継続実施中ですが、ディスタンスや消毒の問題などがあるものの、人数の緩和や動きの制限などもやや緩和され、対面での行動がいかに大切かを改めて感じます。オンラインでは感じられないこの気持ちを大事に、新しい事も受け入れながら、今までの事も守って、新しいスタイルを確立できれば…と感じる昨今です。

同様にワイズの活動も、今このタイミングだから出来ること、新しい取り組みを共に考えていきましょう。



☆今月の歳時記から☆

‘桜 さくら’ と ‘花見 はなみ’

‘さくら’、桜の花はなんといっても百花の王ですね…。花王ともいわれ、古来、‘花は桜木 人は…’というほどに賞揚されてきました。‘敷島の大和心を人問わば…’は有名。ヤマザクラ、ヒカンザクラ、ソメイヨシノなどの自生種や栽培種を加えれば数百種に及び、朝の澄んだ時や夕暮れ時などの光の中で観る様は、また格別であろう。

命二ツの中に活きたる桜かな 芭蕉
明星や桜定めぬ山かづら 其角

次に‘はなみ’、この時期のもう一つは花見、古代の花見は桜ではなく梅であったとか…。桜になったのは平安の頃からとか…。当時は専ら貴族の行楽、酒を飲み・詩歌に興じた…、元禄のころから庶民も…、秀吉の‘醍醐の花見’は有名、農村では農作に先立って守るべき儀礼事で、花見正月とも。

うかうかと来ては花見の留守居かな 丈草
老いそめて花見るところひろやかに 蛇笏
一茶



☆4月・5月のこよみ☆

- >4/3(土) 第1例会・湘南とつかYMCA・17:00
- >4/17(土) 部評議会・中央YMCA・15:00
- >4/20(火) 第2例会・湘南とつかYMCA205号室・18:00
- >5/8(土) 第1例会・湘南とつかYMCA・17:00

～Happy Birthday～
川津 政義さん 4月17日

【掲示板】

会長

◎ 4月・5月の会合について

ア 4月は、上記のとおり4月3日(土)に第1例会を予定しています。例年開催の“吉原邸・竹の子例会”の日時等は、第1例会当日に協議します。

イ 現在、クラブ担当主事の瀬戸俊孝さんは、4月以降も引き続き担当されます。瀬戸さん、何分よろしく…。

◎ 湘南とつかYMCA第6回運営委員会から

2020年度最終の運営委員会が3月22日、対面式＋リモートで開催されました。

初めに、第4四半期の事業報告があり、コロナ禍の中にあつて湘南とつかYMCAとしては大きな予算未達成もなく、職員・関係者の協力により事業を終えることができた旨の報告がありました。続いて、横浜YMCA全体で取り組む中期3か年計画について説明があり、特に「地域における様々な取り組みについて、ご意見をお寄せいただきたい…」と山中館長から要望がありました。

さらに、昨年度中止になった‘運営委員・リーダー・スタッフ交流会’を今年度は実施する旨報告があつて、運営委員会はすべての議事を終了しました。

終わりに、長い間委員を務められた加藤利榮委員の辞任と露木職員の退職が報告されました。お二人ともに大変お世話になりました。有り難うございました。

訃報



休会会員の佐藤康子さまには3月23日の夕刻、病のため召されました。享年91歳でした。昨年の夏ごろから、横になりがちな日々を送っておられましたが、亡くなる前日頃には食事も喉を通らなくなり…とのことでした。日ごろ、通っておられた本牧教会において、内輪にご家族葬を執り行われたとのことです。クラブとしては、「会長ほかクラブ員一同」で弔電を入れさせていただきました。心からの平安をお祈りいたします。

（後記）

そろそろコロナも…、ワイズの方でも そろり…と
いきたいところですが…。 **Change! 2022～**

(TK)